



ジェンダーと教育

女子の高等教育機関創設への道

先のNHK連続テレビ小説『あさが来た』を見て、女子教育に関心を持たれた方もいらっしゃるのではないのでしょうか。女性の仕事は家庭の内にもみあると一般には信じられていた明治時代、主人公のモデル広岡浅子氏が性別に関係なく実業界で奮闘しつつ取り組んだのは女子の高等教育への道を開くことでした。

進学率にはまだ男女差も

女子の高等教育機関が創設されて115年。現在の日本では、識字率、初等中等教育の就学率においては男女平等を達成しており、高等教育も合わせた日本の教育におけるジェンダー・ギャップ指数は0.988、145ヶ国中84位となっています*1。一定の男女平等は達成されていますが、日本の男子の4年制大学進学率は55.4%、女子は47.4%*2であり、初等中等教育段階では見られない就学率における男女差が高等教育においては見られます。

さらに、教育の分野における男女平等を目指すこと

がもとめられているのではないのでしょうか？

女子だけが直面するのではない 教育とジェンダーの問題

従来、教育現場におけるジェンダー（社会的・文化的性差）の問題は、社会に残る「男らしさ」「女らしさ」の価値観を学校文化が反映してしまった結果、女子の高等教育進学率が男子に比べて低くなる現象など、女子が男子に比べて不利益を被っている場合の研究を中心に行われてきました。けれども時代が進むにつれ、女子生徒が「女らしさ」の縛りのおかげで被っている不利益だけではなく、男子生徒が「男らしさ」の縛りによって直面している課題やLGBTの生徒が感じている課題も明らかになりつつあります。「男らしさ」「女らしさ」の縛りを越えて、「その人らしさ」で子どもをとらえ、一人ひとりの可能性を開く教育を行うために役立つ書籍をご紹介します。

*1…世界経済フォーラム「ジェンダー・ギャップ指数2015」
ジェンダー・ギャップ指数とは世界経済フォーラムが各国内の男女間の格差を数値化しランク付けしたもので、0が男女間の完全不平等、1が完全平等を意味する。

*2…内閣府「平成28年版男女共同参画白書」

【役立つ3冊をご紹介します】

※市内図書館&すくらむ21で読めます&借りられます。



ジェンダーと教育の問題を理解する第一冊目としておすすめ

『学校文化とジェンダー』

一見男女平等に見える学校文化には見えない「隠れたカリキュラム」があり、授業や進路指導、教師と生徒、生徒と生徒の相互作用を通じて暗黙裏に固定的な性別役割観が伝達されてしまっていることを教えてくれる一冊。男子優先、女子に甘い教師文化、雄弁な男子、沈黙する女子、みなさん、覚えはありませんか。

著：木村涼子
出版：頸草書房、1999年



学齢期の男子の抱える問題をどうとらえるか。

『男子問題の時代？ 錯綜するジェンダーと教育のポリティクス』

学齢期の男子の中にも多様性や不平等があり、「男らしさ」の規範の中で自尊感情が低くなり周縁に追いやられる男子や、学業不振や不登校などの困難を抱えている男子も多い。ジェンダーの問題を考えると、男子の問題、女子の問題と、性別ごとにひとくくりにして考えるのではなく、誰が問題を抱えて困っているのか多様性に目を配る重要性を教えてください。(すくらむ21でのみ閲覧・貸出可)

著：多賀太
出版：学文社、2016年



LGBTの子どもを支援するには

『学校・病院で必ず役立つLGBTサポートブック』

学校・教育関係のスタッフがLGBTの子どもたちについて理解するために役立つ一問一答形式のサポートブック。相談機関等の情報も掲載されている。LGBTについてより詳しく知りたい方は「すくらむ21ブックインフォメーション vol.11 LGBT」にてご紹介した書籍もあわせてご参照ください。

編著：はたちさこ 藤井ひろみ 桂木祥子
出版：保育社、2016年

すくらむ21
館長推薦!

絵本の紹介 生きることと学ぶこと

子どもには未来があります。未来の社会を作っていくのは子どもたちです。どんな未来を作っていくのか、それは子どもたちが学び考え、多くの人とかかわりながら見つけていくことです。子どもは一人ひとり、どんな大人になりたいのか、どんな仕事に就きたいのか、どのように生きるのかを選択する自由と責任があります。そのためには、様々な事を学ばなければなりません。日本では子どもが学ぶこと、教育を受けることは権利です。

「すべての女の子には教育を受ける権利がある。」しかし、世界ではいまだに女兒に対する教育が特に遅れている現状があり、一説には全世界あわせて6,500万人もの女の子が初等教育も中等教育も受けていないと言われています。「すべての子どものすばらしい未来のためには学校と教育が必要です。」これらは銃弾に倒れながらも平和と教育を求めて活動をしているマララ・ユスフザイさんの言葉です。

2013年7月12日、16歳の誕生日に国連ユース集会で行ったスピーチの一節です。この日は

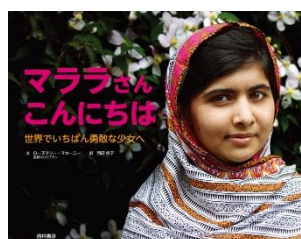
写真集『マララさん こんにちは～
世界でいちばん勇敢な少女へ』
絵本『マララとイクバル～パキスタンの
ゆうかんな子どもたち』

「マララ・デー」となりました。

写真集『マララさん こんにちは～世界でいちばん勇敢な少女へ』と絵本『マララとイクバル～パキスタンのゆうかんな子どもたち』は子どもたちへの教育がいかに大切であり、必要とされているのかを身をもって伝え、訴えかけてきます。子どもたちの勇気が世の中を変えようとしています。絵本は表裏なく、どちらからでも読める面白い構成になっています。写真集の子どもたちの表情には意思を感じます。お奨めの2冊です。

この2冊の本は、すくらむ21の1階第1交流室キッズコーナーで皆様をお待ちしています!

著: ジャネット・ウィンター
出版: 岩崎書店 2015年



著: ローズマリー・マカーニー
出版: 西村書店 2014年

すくらむ21 4～6月の新入荷書籍 ※すくらむ21で読めます&借られます。

男女別学の時代 戦前期中等教育のジェンダー比較 著者: 小山静子 出版社: 柏書房	「育休世代のジレンマ」女性活用はなぜ失敗するのか 著者: 中野円佳 出版社: 光文社
「全身〇活」時代 就活・婚活・保活からみる社会論 著者: 大内裕和・竹信三恵子 出版社: 青土社	なぜ、あの会社は女性管理職が順調に増えているのか 著者: 麓幸子・日経 BP ヒット総合研究所編 出版社: 日経 BP 社
世界でいちばん貧しい大統領のスピーチ 著者: くさばよしみ/編 中川学/絵 出版社: 汐文社	子どもと話す マッチョってなに? 著者: クレマンティーヌ・オートン 出版社: 現代企画室
オトナ女子の不調をなくす 体にいいこと大全 著者: 小池弘人 出版社: サンクチュアリ出版	あおくときいろちゃん 著者: レオ・レオーニ 出版社: 至光社国際版絵本
EMAC (エマック vol.09) 著者/出版社: 日本財団学生ボランティアセンター	貧困研究 (第15号) 著者: 貧困研究会 出版社: 明石書店
ワーク介護バランス1 こもまでできる働きざかりの介護 著者: 小山朝子 出版社: 旬報社	男子問題の時代? 錯綜するジェンダーと教育のポリティクス 著者: 多賀太 出版社: 学文社
ワーク介護バランス2 コミュニケーションで変わる働きざかりの介護 著者: 小山朝子 出版社: 旬報社	LGBTの子どもに寄り添うための本 著者: D.オウエンズ=リード & C.ルツ 出版社: 白桃書房
ワーク介護バランス3 会社が支える働きざかりの介護 著者: 小山朝子 出版社: 旬報社	意識をデザインする仕事 著者: 須藤シンジ 出版社: CCCメディアハウス
しなやかな仕事術 著者: 林文子 出版社: PHP研究所	

